ログイン画面





会期: 2021年8月21日(土)~30日(月) オンラインで開催します



日本教育心理学会第63回総会

ログイン

メールアドレス

メールアドレスを入力…

パスワード パスワードはご自身で設定します

パスワードを入力…



パスワードを未設定またはお忘れの方はこちら >



1/5





2/5

視聴方法等

「発表一覧」「シンポジウム」から参加したい プログラムを選びます



ポスター発表

Nairne et al. (2007) 以降の一連の研究ではsurvival処理(生存欲求処理) が他の処理よりも記憶を促進することを示した。豊田・井上(2018) では,生存欲求処理と快-不快処理における 提示形式の効果を比較した。その結果,生存欲求処理では集中提示=分散提示,快-不快処理では分散提示>集中提示という関係を示した。この結果は,生存欲求処理が強い符号化であり,集 中提示でも有効に機能すると解釈された。本報では,生存欲求処理と自己実現欲求処理(生存・自己),及び生存欲求処理と親和欲求処理(生存・親和)を組みあわせて,記憶に及ぼす効果を 検討する。Maslow(1962) による欲求階層構造からすれば,生存欲求処理は最下層に位置し,自己実現欲求処理は最上層に位置しているので,処理内容は異なり,符号化の変動性は大きい。 一方,親和欲求処理は最下層に近く生存欲求処理との符号化変動性は小さい。もし,符号化変動性が影響するならば,生存・自己が生存・親和よりも再生率及び分散効果が大きくなるであろう。 っ方,Toyota(2016)のモデルでは,下層ほど優勢な符号化であり,その有効性が高いので,生存・親和が生存・自己よりも再生率及び分散効果が大きくなるであろう。本報の目的は, これらの対立仮説を意図記憶と偶発記憶手続きで検討することである。 メンバー (0人) メンバーが登録されていません

ここに責任発表者の お名前が表示され, それをクリックすると, 質問等のメッセージを 送ることができます

4/5

Х

欠の企業

ウェブサイト

資料ダウンロード

ダウンロード

パワーポイントのスライドや短い動画ファイル などをアップロードすることができます

発表論文

「発表論文」の下の「ダウンロード」をクリック すると,発表論文集の論文が閲覧できます

シンポジウム



5/5

10:00 - 18:00 メインルーム

「主体的・対話的で深い学び」を問う一ポスト・コロナの授業に向けて一